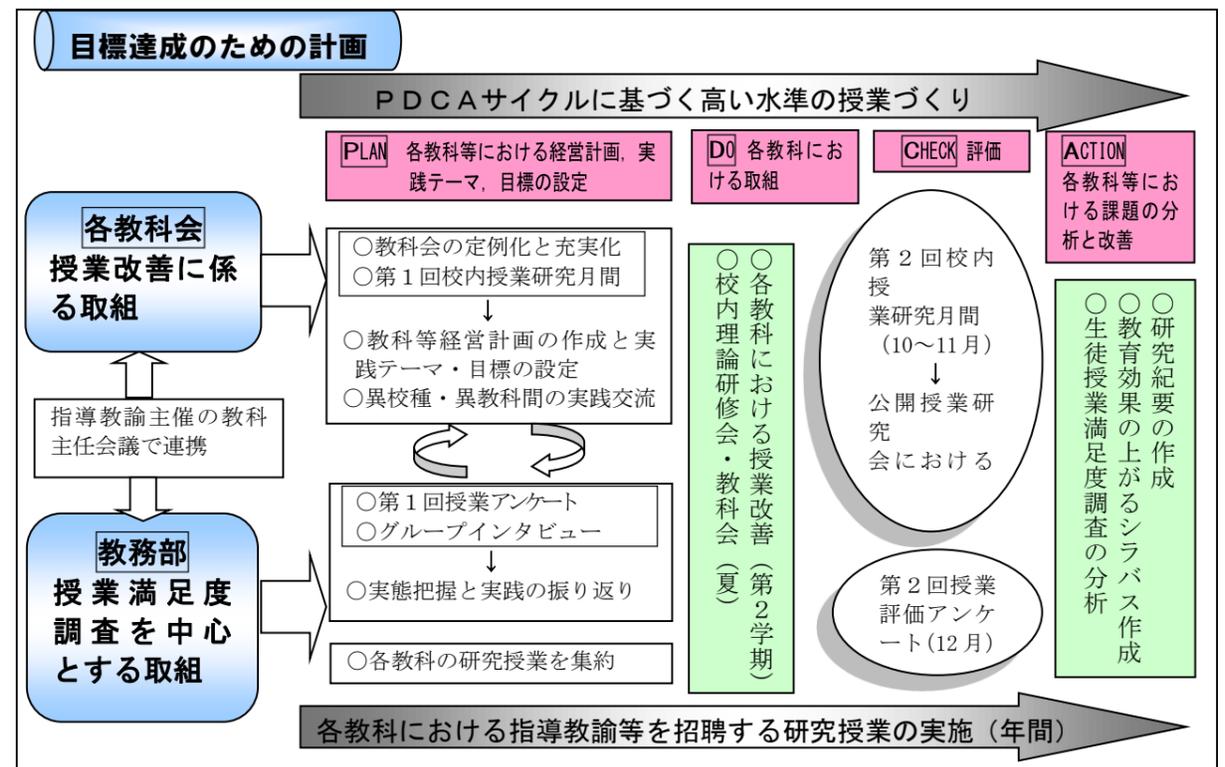


<p><b>研修成果の活用レポート/NITS 大賞エントリーシート</b></p> <p>※研修成果の活用レポートは、NITS 大賞エントリーシートと同様式です。NITS 大賞に応募される方は、推薦者への提出とは別に、&lt;award@ml.nits.go.jp&gt;宛て、メールにてお送りください。なお、メール送信後、3 日以上受領メールが届かない場合はご連絡ください。</p>	<p>※事務局記入欄</p> <p><b>受理No. : A-37</b></p>
<p>【学校名・氏名】 広島県立広島中学校 矢原 豊祥</p>	<p>【応募部門】 カリキュラム・マネジメント実践部門</p>
<p>【修了研修名】 平成 30 年度 第 3 回 副校長・教頭等研修</p>	
<p>【活動名】 主体的な学びを促す学校 ～教科経営のマネジメント力育成～</p>	
<p><b>解決すべき課題：※活動を行う前に、どんな課題設定をしましたか？</b></p> <p>学習者の「主体的な学び」を進めていくために、全ての教科で授業展開の工夫や改善に取り組んでいくためには教員の組織的な取組を充実させていくことが必要である。学習者基点の授業満足度調査や、教員がお互いに授業を参観し合う期間を設定し、全教科がベクトルを揃えて「主体的な学び」を推進していくこととした。授業満足度調査の評価を指標とし、「主体的な学びを促す高い水準の授業づくり」をテーマに、組織的に推進していくこととし、教科主任会議を軸に各教科や中高接続の連携をさらに密にし、定例化した教科会の中で教科の特性に応じた具体的な授業展開の工夫を共有し、ベテランの授業の知恵を若手が学ぶ等の協働的な取組をさらに進める。</p>	
<p><b>目標・方針：※課題を解決するためにどんな目標や計画、戦略や方針をたてましたか？</b></p> <p>目標として、授業満足度調査結果（授業評価）における「全体的に授業に満足している」に対して肯定的評価 90%以上（4 段階のうち最も高い評価 50%以上）を設定した。達成に向け、教員 1 名あたり年間平均 8 時間以上の授業参観を実施する。授業改善に向けて、教科主任会議を中心に主体的かつ具体的な改善策の取組を進め、その成果と課題を検証する。定例化した教科会で、生徒の実態把握や指導方法等の共有を進める。また、各教科の特性に応じた具体的な授業展開を教科内で共有する。</p>	
<p><b>活動内容：※何を行ったか、具体的に記載してください。</b></p> <p>教頭として、全教職員との人間関係の向上を図るとともに、風通しのよい協働的な集団へと高まっていくため、さらに「高い水準の授業づくり」に向けた、授業の改善と充実を図るマネジメントサイクルの構築に取り組んだ。まずは、次の(1)「教科主任会議」と(2)「教科経営計画」を活用した教科主任育成である。</p> <p>(1)「教科主任会議」という組織</p> <p>マネジメントサイクルを活用し、教員集団として授業の改善と充実を図るためには、各教科の中心となってマネジメントを行う教科主任の役割が重要となってくる。本校では、教科主任が指導教諭や他の教科主任と連携しながら、教科経営を進めていくことが求められている。その鍵を握るのは、「教科主任会議」である。「教科主任会議」は、教務部・進路指導部等と教科会を「つなぐ」役割を果たしている。また、教科間を「つなぐ」という横軸での連携と、中学校と高等学校という校種間を「つなぐ」という縦軸での連携の場でもある。</p>	

(2)「教科経営計画」の活用

各教科主任に教科経営計画を作成させた。学校経営計画の経営目標や評価指標とリンクさせながら教科経営目標や評価方法の設定を行い、PDCAサイクルの中で「見える化」させた。具体的には、授業満足度調査をはじめとして、大学入試にかかる模擬試験・実力テスト等の数値化された指標を主に活用している。定例の教科主任会議で各教科主任からの報告を行い、中高の同一教科の主任どうしが課題について話をする材料としても活用している。

次に、目標達成のためのマネジメントサイクルを、次の図のように整理した。マネジメントサイクルと教科主任会議を通して、授業の改善と充実をどれだけ推進するかが重要である。さらに、「校内授業研究月間」と「授業満足度調査」等の取組の一つ一つを有機的に「つなぐ」ことが求められる。



活動の成果：※それによって、どんな成果が得られましたか？

授業満足度調査結果（授業評価）における「全体的に授業に満足している」に対して肯定的評価の割合は、中学校 95.6% 高校 94.1%であり、4 段階のうち最も高い評価の割合は中学校 68.7% 高校 60.9%と目標値を上回ることができた。特に、最も高い評価の割合が目標値を大きく上回った。主体的な学びを促す「高い水準の授業づくり」に係る各教科の組織的な取組が効果的であったと考える。

アピールポイント（アイデアや工夫）：

教職員の授業力向上の意識を高める組織的な取組が確立してきた。教科主任会議を軸に教科間の連携、中学校と高校の連携を密にし、授業満足度の向上や授業参観し合う期間を設けるなど、PDCA のマネジメントを活かした、授業力の向上を図るシステムが充実してきた。